

「サステナビリティ経営」の浸透に向けて

# サステナビリティ フォーラムを開催



(登壇者の役職はフォーラム当日のものです)

サステナビリティ推進部は2022年12月16日、本社および関東近郊の管理職や社員約100名を集め、「第1回サステナビリティフォーラム」を開催しました。

三愛オブリグループはサステナビリティ経営の強化に向けて、2021年12月に「サステナビリティ基本方針」を制定、2022年4月にはサステナビリティ委員会を設置しました。そして、今回、人類と社会の持続可能性について、事業者として社員一人ひとりがCSRやサステナビリティに取り組む意義と必要性を再認識し、組織として進むべき方向性を共有するためにフォーラムを開催。当日は有識者による基調講演とパネルディスカッションが行われ、今後の課題や展望について意見が交わされました。



代表取締役社長  
塚原 由紀夫

三愛精神に通じる  
サステナビリティ経営を全社に浸透させ  
持続可能な社会に貢献する

当社グループは、低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオへ進化させるため、2030年を見据えた中期経営計画を策定・推進しており、必要な投資を積極的に行っていく。航空事業部におけるSAF※の受入・給油のように、各事業において脱炭素商品の取り扱いが増えてきているが、化石燃料から新エネルギーへの移行期においても「安定供給」という責務があることを忘れることなく、同時に新たな領域への挑戦が不可欠と考えている。「あれか、これか」ではなく「あれも、これも」といったトレードオンの思考で経済価値と社会価値の拡大を目指す。サステナビリティ経営は経営理念である「三愛精神」に通じる考え方である。事業環境を冷静に見定め、これからも事業を通じてより良い社会の発展に貢献していく。

※ Sustainable Aviation Fuel



取締役  
専務執行役員  
大沼 尚人

それぞれの部門に蓄積してきた技術の  
顕在化を。技術と人材を最大限活かし、  
価値創出し続ける企業へ

1952年、羽田空港での給油事業が当社グループの祖業である。そこで培われた危険物施設の運営技術が、化学品事業やクリーンテック事業、都市ガス導管事業に派生し事業領域を広げてきた。それはまさに挑戦の歴史。その起点となった当社グループのコアコンピタンス「技術力」だが、創業70年を迎え事業部制にしたことの影響もあって技術が点在する格好となっている。その技術をグループ全体で棚卸し、相互理解のもとシナジーを創出していくための「テクニカルミーティング」を開催している。肝心の技術力が落ちては、人も商機もやっこない。「コア技術は決して劣化させない」という強い決意のもと、人材投資や人事政策を実行することにより、柔軟な思考で新しいことに挑戦できる基盤づくりを推し進めていく。



取締役  
常務執行役員  
隼田 洋

大きな社会変化に対応するには  
既存概念の打破が必要  
異業種との協働など、新たなアプローチを

本フォーラムを通じて再認識したのは、自社の根源的な強みを把握したうえで社会課題と向き合うことの大切さだ。昨今、ESGへの関心が高まるなか、お客さまの意識やニーズにも大きな変化を感じる。気候変動への対応として化石燃料から天然ガスへの燃料転換をはじめ、排水しても環境負荷の少ない洗剤への切り替え、サプライチェーン全体として人権問題への関心も高まっている。

このような変化に的確かつスピード感をもって対応するには、異業種との協働など新たな営業スタイルを採用すべきだ。分野の違うパートナーと協働することで、顧客獲得の方法など学ぶことも多いはずだ。中期経営計画の事業戦略で示す方向性に間違いはないので、既存概念に縛られず邁進し、価値創造に挑戦していきたい。



一般社団法人  
経営倫理実践研究センター  
フェロー

川村 雅彦

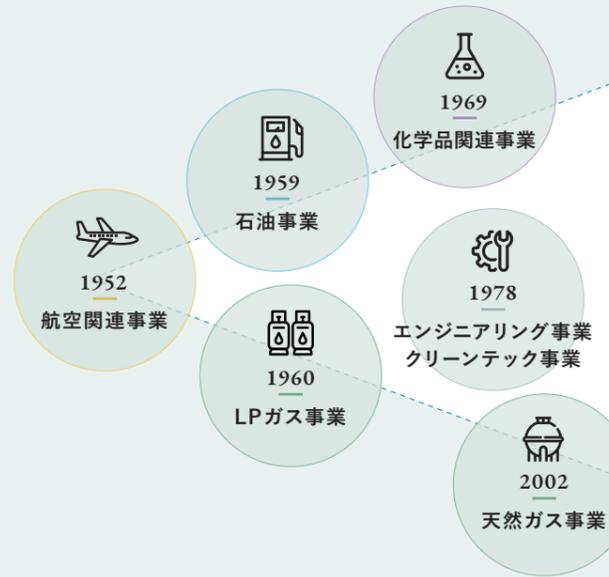
さまざまな挑戦は「健全な危機意識」の表れ  
さらなる歩みに向け  
「三愛オブリの世界観」の共有を

気候変動や資源問題など地球規模のサステナビリティは「2030年までが勝負」と言われている。三愛オブリグループは基本課題を把握し、2030年という時間軸で社会・環境の変化を見据え、将来のあるべき姿や事業の方向性を打ち出している。この点は高く評価できる。

今後、脱炭素社会への流れの中でエネルギーを取り扱う事業者として課題と期待にいかに対応していくか。そのために重要なのは、三愛オブリグループが目指す世界観を全社員で共有し、健全な危機感に基づく最善の戦略と価値創造能力を高めることである。三愛オブリグループは商社でありながら技術力もある会社。この強みをもう一段階上へ進化させ、社会課題の解決に役立つプロダクトや新たなビジネスモデルを創出してほしい。

グループシナジー創出に向けて

# 事業間連携を強化する 「テクニカルミーティング」 を開催



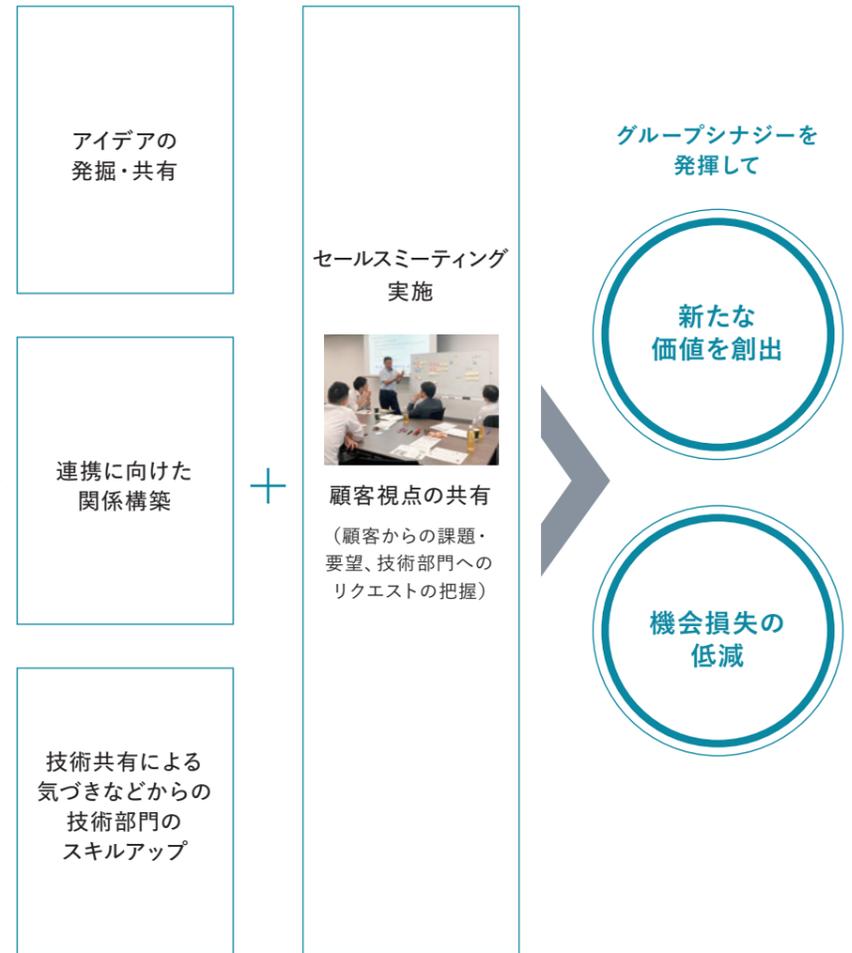
主な貢献領域

- 空港地下に広がるハイドラントシステムの運営に**  
 ・給油施設建設コンサルティング  
 ・大型貯油基地のオペレーション  
 ・ジェット燃料の品質管理
- 小惑星探査機「はやぶさ」の分析チャンバーや半導体の精密洗浄に**  
 ・金属表面処理技術(化学研磨・電解研磨)  
 ・精密洗浄技術  
 ・イオンクロマトグラフなどの超微細な分析技術
- 暮らしを守る都市ガス埋設配管の保守管理に**  
 ・ガス漏洩箇所の特長技術  
 ・埋設ガス管探査技術  
 ・導管解析ソフトによる圧力分析技術
- 風車内部の主軸やギアボックスの予防保全をワンストップで**  
 ・オイルのトレンド分析  
 ・ポアスコープ、工業用内視鏡による内部調査
- 工業用品、食品、住宅、自動車など幅広い分野に「防ぐ」技術で貢献**  
 ・微生物劣化を未然に防ぐ防腐・防カビ技術  
 ・微生物受託試験、培養技術、制御技術  
 ・コーティング、防汚技術

## テクニカルミーティング

相互理解

部門横断的な関係構築



三愛オブリグループは、航空燃料取扱業を祖業に、石油事業、LPガス事業、天然ガス事業、化学品事業、クリーンテック事業などへ技術力を応用し事業領域を広げてきました。私たちの原点である技術力は常に「安全」「品質」「信頼」のために養われ活かされてきました。

2022年6月以降、段階的に開催されたテクニカルミーティングは、各部門が培ってきた技術力やノウハウを棚卸しし、分野を超えて相互理解を深めるとともに、営業部門など他者の視点で捉え直すことで新たな領域を目指す試みです。中期経営計画「変貌する未来へ

の挑戦 Challenge 2030」を達成するために技術部門に求められているミッションは何か。祖業からの「技術力」をさらに発展させ、より良い社会に貢献するために、高い視座をもって取り組みが進められています。

